

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人 縁(ユカリ)会		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地	千葉県花見川区千種町380-6		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1)職員は退職者が少なく馴染みの関係、入居者の皆様は落ち着いた雰囲気です。26年に入居されたOさん、時々若返り、学校・工場の名前が出てきます。これから何をするの？勉強は？等・・・一寸家に行って来ますと玄関に出ることあり、歩行は長くは歩けないが、共に歩き一周して戻り、又いつもの生活です。ご家族来苑時は80代、一緒に帰ることもなく「爺さんに直しく」と見送ります。何よりも思い思いの生活、ご自分の言葉で表現し意思表示、元気いっぱいの皆様です。
 2)自然に恵まれた環境(ふるさと農園・こてはし高校・こてはし公園)散歩時は高校生に言葉を交わし、エネルギーを頂いたり、又こてはし高校一周する散歩者に「げんきだね～」笑顔で応えています。最近散歩は少なくなりましたが散歩ボランティアに支えられ地域の方達に感謝の毎日です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「基本的人権の保護、家庭的な環境、生きがい支援」という理念のもと、管理者、職員は利用者一人ひとりと向き合い尊重する姿勢を大切に支援しており、ボランティアの協力を得ながら利用者が自分らしく暮らしていることがうかがえる。地域にもホームの存在が浸透しており、多くの支援者がいる。清掃や散歩、傾聴などにもボランティアが参加しており、ホームの運営を支えている。運営推進会議には近隣の学校からも参加があり、今後「地域ケア」について話し合っていくことも検討しており、ますます地域の中で当グループホームの役割が大きくなると思われる。本人や家族の意向に沿ってターミナルケアも実施しており、利用者は最後まで安心して過ごすことができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が馴染みやすい様に事務所に掲示、利用者が本人らしく生活できる様に日々現状を把握しながら進めている。又スローガンはふれあう心がお互いに嬉しい支えあっていこうよ、、、。	「基本的人権の保護、家庭的な環境、生きがい支援」を理念とし、職員間で共有するよう努めている。具体的には時間がかかっても見守ることを基本とした支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌詞が見えない等の理由で機能していない。以前の様にコーラス隊として復活させたい。昨年12月感謝の交流会をクリスマスと共に開催し、ボランティアの方達と全員参加の一発芸で盛り上がる。	自治会に加入しており、地域の行事に参加している。また、中学生の職場体験を受け入れたり、近隣の高校とも協力し合う関係にある。また、地域住民は運営推進会議に出席してくれたり、ボランティアでホームの運営を支えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解はやまびこ推進会議の中で発信している。傾聴・散歩ボランティア・犢橋高校と交流。13年間、この千種町の地で続けられたことに地域の方たちに感謝でもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度から年6回→4回になりましたが、地域の課題を取り上げ、交通の不便さ等地域の沢山の方たちと意見交換、第2段階へ進もうとしています。	あんしんケアセンター、自治会、学校関係者、家族会、地域住民、ボランティアなど多様なメンバー20名ほどで外部の会議室を借りて開催している。高齢化の進む地域環境を背景に「地域ケア」をテーマに検討する案が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用し地域の課題に行政の方たちの応援を得て取り組んでいます。	行政の担当課とは事情のある利用者の対応について相談するなど運営上の課題について協力し合っている。また、地域包括支援センターが運営推進会議に出席しており、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は代替案を出し、一丸となって取り組んでいる。玄関は施錠せずに見守ることで利用者の安全を確保し、自由な暮らしを提供している。	拘束を検討した事例はあるが、話し合って拘束をしないケアを実践している。玄関も原則として施錠せずに見守りで対応するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一人ひとりの生活や見守りを強化、細かいことも見逃さずに記録に残す。送りノートでも書き残す。虐待とは関係なく、痣や傷にどのような状況でなったか、会議で意見交換し再発防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人ボランティアとして関わって下さり入居者の話し相手、職員と同じ目線で同等の働きに感謝している。推進会議でも講師として関わり学ばせていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改正時は家族会と3度も話し合う。ある程度職員も理解が得られるように説明、ご家族の間に答えられる様にしている。最近では敬老会にて家族の会議を開かれた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	やまびこ推進会議にはご家族も参加、面会時には密に連携をとっている。	家族会を設置しており、家族が意見を言える機会がある。この他、運営推進会議、来訪時に意見を聞き取るなどしている。家族会から写真の掲示方法についての意見が出ており現在検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の提案は会議で話し合い、議事録作成、報告がある場合月1回の請求書発行時に同封、身元引受人以外のご家族にも要望があれば行事の案内等している。	毎月の職員会議には全員が出席しており、意見を言える機会となっている。提案については検討し、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境には気配りをし頑張っている方には言葉を浴え給与にも多少の差をつける。看取りでは夜間帯・異変時など駆けつけ、ストレスを抱え込まないようにチームを組み配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中では新人が入るとオリエンテーション・人権の尊重や技術面の研修が始まり、緊急時の対応、身体拘束・虐待等中堅職員も再認識しながら取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて連携をとり横のつながりを持ってサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行動・言葉の意味を本人の立場で試行錯誤しながら気持ちを探り寄せ不安や訴えを汲み取る工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に耳を傾けゆかりの里での生活、不安を取り除く関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階から在宅で一番困っていること、入居してからの不安を聞き、ゆかりの里での暮らしぶりを説明しご家族と共に支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には沢山手伝っていただきますのでいつも感謝の言葉を述べている。大変なときはすーとよってきて手伝ってくれる。いつでもこえかけてねと言われる人がいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には連れ出しをお願いしたり、本人が喜びそうなこと提案したりして良好な関係に努めている。重度化のためか外食等を一緒に食べることはなくなった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしているもの、私達もお仏壇に手をあわせたり、宗教関係の方も出入り自由、時にはお友達にも昼食の用意あり。最近はありません。	友人、知人の訪問を歓迎し、家族と一緒に外食やお墓参りに出かけるなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。また、信仰の自由も確保している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度の差はありますが、にこにこ顔の70代の方に話しかけ交流をもっている利用者同士、私達も癒されて支えられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方のご家族は懐かしいので遊びに行ってもよろしいですか？声がかかる。又退所された方のご家族は珍しいもの届けてくれる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの想いを汲み取り、少しでも本人の希望に添った生活が出来るような支援をしていると思いつつも、把握が困難な利用者へ想いを確認するよう努めている。	重度化が進んでおり、意思の疎通が難しい利用者が多い。職員は利用者の表情や家族の話などを通じて、思いや意向を推察している。センター方式と呼ばれるアセスメント方式を少し簡素化して使用しており、職員間で情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族が来援されたときできるだけご本人の歴史を聞いたり、ご本人の雑談の中から聞いている。サービス利用に生かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの生活やその日の体調や好みを把握してよりよき生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員同士の情報交換を行って家族や本人の意向を汲んで楽しい生活を送れる様に努めている。	本人、家族などの意向を踏まえ、職員の日々の記録をもとにケアマネジャーが介護計画を作成し、定期的にモニタリング、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録などで日々の様子を把握して職員での情報の共有をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況・希望等聞いたり体調の変化や入退院時の状況を考慮して必要なサービスを提供している。又ご家族の希望する病院への変更、看取りの支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(散歩・傾聴・音楽他)さんは沢山関わり有り、ゆかりの里の入居者とのかわりが楽しいといってくれる。職員も元気を頂きながら認知症の方たちとの現場は笑いが満載です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療月2回、気になる箇所は事前にFAXにて知らせ対応している。通院も利用者に応じて支援、かかりつけ医についても情報提供し適切な受診できるように支援している。	月2回の訪問診療や訪問歯科により利用者の健康管理をしている。訪問歯科には嚥下についての相談もしている。服薬チェックについてはさらに強化することが期待される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察やきずきは看護師に相談し適切な処置や指導を受け受診や看護につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携しご家族の意向を取り入れて情報交換している。認知症があり混乱しているときは入院は適さないと2時間で退院された方に対して入院時と同じ抗生剤など薬剤処方され治癒された。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の対応方針に基づき説明同意、食事が取れなくなった段階で訪問診療医・ご家族・ホーム側が今後の対応について話し合い、要望があれば看取りの同意書を頂いている。看取りの為に在宅診療医と契約をしターミナルに取り組んでいる。	ターミナルケアに取り組んでおり、医師、家族、職員で話し合いながら、本人の意思や家族の希望に沿うように進めている。非常勤で看護師も配置しており、ケアにあたって職員にアドバイスをしている。今後同時に複数の看取りが必要になった場合の体制については検討が期待される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本となるマニュアルを整備して全ての職員が対応できるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網に近隣の協力体制(5名)を築いている。消防訓練など協力体制あり	年1回、消防署の指導を受け、火災想定訓練を行っている。利用者全員分の防災頭巾を用意し、非常食としてはお米を多めに常備している。非常通報装置を押すと、消防署と近隣5件に自動的に電話がかかるしくみがある。	地震、水害など自然災害を想定した訓練の実施が期待される。また、災害用物品についても、さらなる検討が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように言葉かけの配慮、認知症が進み危険行為が察知できない方には、仲間より職員が先に気づき、さりげなく対応する様にしている。	認知症を理解し、尊厳に配慮した対応に努めていることがうかがえる。利用者は自分の役割を持ち、ホームにおいても趣味を継続している。以前は利用者のコーラス隊を結成して地域のイベントに参加していたが、重度化が進み、休止状態となっている。	プライバシー配慮のため個人情報の保護方針・利用目的を明示して家族に同意書も貰っているが、写真の扱いについても追記されるとよいと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声掛け、問いかけは自己決定できるように配慮、拒否があった場合は無理には進めない、時間を置き再度挑戦する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まった日課はあるが、その日の状況により変更している。本人の意思を考慮に入れて具体的な行動をとることで満足感を得られる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容で2ヶ月に1回整髪している。ヘアダイ等も要望があり試みた、職員より「素敵ね」と言われ嬉しそうである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いできる人は4人、日常の食事の一連の行為(切る・洗う・盛り付け・食器洗・食器拭き)積極的である。行為の中での美味しそうと食事も楽しんでいる。	利用者も配膳・下膳などに参加しながら皆でテーブルを囲んでいる。行事、誕生会には特別メニューを用意したり、リクエストに応じて刺身にするなど食事が楽しくなるよう努めている。また、おやつも手作りを心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下・栄養状況が困難な方はエンシュワを提供し食事前にお茶を進めている。水分は1,000～1,500CC目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、食後のハミガキ・いれ歯の手入れ等、誤嚥性肺炎にならないように口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用を減らすまでにはなっていないが排泄パターンを把握し快適な生活となるように工夫している。	必要に応じて排泄チェック表で記録している。トイレ誘導は個別に行っている。また、自然な排泄を促すため、野菜や水分を多めにとるように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は1,000から1,500CC取り入れ繊維質のものなど野菜を多く取り入れている。力むことが出来ない方は下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回入浴拒否する方がおり上手な声掛け誘導のタイミングで洋服を脱いでしまえば、ゆっくり湯に浸かり気持ちよさそうである。	週2回以上は入浴できるよう支援している。ホームの岩風呂で入浴ができる人は現在おらず、設備が整った隣接する小規模多機能型居宅介護事業所のお風呂を使用している。	
46	si	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆかりの里の皆様は早寝早起きで朝食6:30~食し、日中は動いているため7:00頃から8:30と早めの就寝である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については副作用など把握している。遅番が用意し夜勤者が確認、朝昼夕それぞれの担当が飲み込むまで確認するが、それでも薬が落ちている。(一旦口に入れたものなど)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いは喜んでしてくれる。塗り絵・積み木崩し・ゲーム・歌・編み物、好きな人それぞれである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿うことは出来ないが認知症が進み仲間とかみ合わなくなった方に対して週2回ボランティアさんが支えて外出支援もしてくれる。買出し・精米・銀行は最近では寒いので少なくなっているが暖かいときは散歩がてら連れ出す。	長年、地域との関係性を築いてきた当ホームは外出支援のボランティアの協力で、個別あるいは何人かまとめて外出できるようにしている。お花見や時にはペットショップに動物を見に行くなど、外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近買い物にも興味がなくなり、見て楽しむほうが多くなった。ペットショップは人気である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より電話の依頼があればいつでもOK、現在2名の方が電話で話している。お手紙を頂くと喜んで何度も見ており、返信までには至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は採光を取り入れたホールは暖かい。時間によっては眩しいときあり、テーブルを移動したりしている。	1ユニットで家庭的で開放的な環境の中、リビングで思い思いにくつろいでいる利用者の姿を見ることができた。温度湿度には特に気を配っており、換気にも配慮している。掃除ボランティアが来ており、ホームは清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ2脚、仲間同士座っているときあり、又職員の近くで椅子に座っている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室エアコンでこまめに対応している。使い慣れたもののお仏壇やご家族の写真や飾り、趣味の作品も飾っている。	収納スペースが広く、夏冬の衣類の収納も十分できる。居室には個々に好みの家具、仏壇などを持ち込み、写真、馴染みの品などを飾ってそれぞれ自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量を考えて洗いの、洗濯物干し・たたんだり、暖かい時期は草むしりも手伝ってくれる。入居者に合わせた手すり・表札など工夫している。		